

村の人の先頭にたつて、工事に努力しました。農作業のうさぎょうをやりながら、何年もかかる堤防工事を続けることは、村の人にとって苦しい仕事でした。

しかし、しっかりとした堤防ができなければ、村の人の生活もできません。水に苦しみ、石だらけの畑に土を入れ、砂の下にうまつた田をほりおこすくらしを、いつまでも続けなければなりません。やがて、食べることも、住むことさえもできなくなつてしまいます。

与次右衛門よじえもんは、堤防工事につかれたからだで、田畑の仕事もしなければならぬとき、どうにも気がふさいできます。そんなとき、

「村のみんなが、がんばっているんだ。おれがしっかりとしなければ、村はどうなる。」

と、自分にむちうちながら、村の人の先頭に立つて、がんばりました。

こうして、何年もかかって大川の堤防ができ、大川から水をひく堰せきもできて、